



ロータリーは 例会参加からすべてが始まる

『ロータリーの友』委員会

顧問 石井亮太郎 (松戸東)

職業奉仕はロータリーが開発した思想の独自性の一分野であるといわれています。過般あるガバナーがお出しになった『月信』を拝読致しました折、その管理指針の中に、RI会長の提唱された「職業奉仕の質を高めることによって未来を築こう」の見出しのもとに、職業奉仕あつてのロータリーであり質の向上は重要なことと考えなければならない、しかしただお題目を唱えているのみでは意味がなく、小さなところからでよい、まず実行しよう、と記されていました。私も共感を致す一人であります。

そこで小さなところという源流をどこに見いだしたら良いかということでもあります。そして職業奉仕あつてのロータリーという意味合いを、どう自覚して位置付けを理解し実践活動において効果を得たらよいのか少し触れてみたいと思います。ロータリーという組織は職業人の集団であり、会員の職業の中に奉仕を取り入れるとすれば、家庭生活に次いで職場は最も身近な実践活動の場でもあります。職業は生活の糧を得る利益の追求場でもあります。第三者から利益を得ることが奉仕となる原理と発想をロータリーは開発し、今日も未来に至っても変わるところのないものであります。

ロータリアンはロータリーとかかわりを持ち、職業奉仕の実践を行い得るためには、まず何を考え、何を成せばよいのかを理解できなければ、職業奉仕を自分のものとするとは不可能です。綱領に道徳的水準を高めるとありますが、ロータリーは異なった職種にわたる専門的学理や手段を指導する場ではなく、会員個々は自からの職業の枠の中でそれを開発するのは当然のことであり、ロータリーはいかなる局面にその機能を果たすのか、ロータリーの職業奉仕たり得るために何が与えられるかであります。

人はすべて行動を起こす以前判断と決断を持

たねばなりません。その時人は心の支配に従ずるところということができましよう。そこでロータリーとは何かに思いを寄せて見ますと、週一度の例会に参加しクラブ運営にかかわり親睦を求めるときの例会活動からすべては始まることは申すまでもありません。ロータリーの親睦はただ単に楽しさを求めるのみではなく、異業種の人的交流の中にお互いが啓発し合う自己教育的機能をも含め親睦と呼ぶものであり、異業人の真の交流を通じ自からの人間資質ならびに判断と決断を支配するロータリアンの無限にわたって可能性を秘める心の世界の改良を図ることこそ、ロータリーが与えてくれる功德といえるものであります。従って小さなことから行動を起こさんとすれば、回期的なクラブ例会への参加と親睦の充実を図ることが原点であり、これぞロータリアンの根源的、精神的奉仕の実践と解されるものであり、他のすべての奉仕の実践はこの延長上において果たされるという思考を持たねばならないもので、ロータリアンにとっての特権に値するところ、一般職業人との相違点をここに見極める局面でもあります。

例会出席は最大必要条件です。出たらそこにおいて何を求め、求め得たものを行動の世界にいかん適用するか。職業社会に適用することをもって道徳的水準を高めるための発想と手段を職業の体系の中に取り入れる、入れない、の判断と決断を持つ奉仕の心、良心の命ずるところ新たな発想に準じて職業の遂行が図られる、世のため人のために、これが職業奉仕と称されるロータリー哲学であると考えなければならないもので、この運動の寄って立つ原理基盤と本質を固定した観念でとらえずして本然の姿を保ち、世のため人のためにと掲げる理想を現実の世界に具現することはあり得るのでしょうか、考えて見る必要があります。 第2790地区(千葉)PG



二針三針の奉仕

『ロータリーの友』委員会
顧問 佐古 亮尊（大村北）

アメリカのニューヨークにジョン・ハンネーという靴屋がありました。ハンネーは同じ徒弟仲間の人とほとんど同時に、しかも軒を並べて靴屋を開業しました。1年ほど後、隣の靴屋は叔父さんから思いもよぬ遺産を譲られてにわか金持ちとなり、ハンネーの店に幾倍する大きな店になりました。ハンネーはあせりました。しかし、彼はいらだつ心をおさえて、

「何もそう隣をうらやむことはない。一生懸命やれば、やがて自分も大きな店を持つことができるに違いない」

と、ハンネーはまず自分の方針を決めました。「靴を作るとき、手間を省くようなことは一切しない。のみならず、さらに二針三針の手間を靴ごとに添えていこう。その少しの加減で、履き心地もよく、靴の持ちも良くなる。これが自分の靴だというものを作るのだ。最初は気付かなくても、やがてお客が分かってくれば、自然に客の信用も増し、お客もふえてくるはずだ」と。

こうしてハンネーはあらゆる点に注意を加え、屈せず、たゆまず、努力を続けました。

2～3年たったが隣の大きな店の方は相変わらず客の出入りも多いのに、自分の方は閑古鳥が鳴いていました。それでもハンネーはくじけないで、最初の方針を守り通しました。こうして5～6年もすると、いつか客は隣の店を通り過ぎてハンネーの店に来るようになり、十数年すると隣の店に倍する大きな店となり、ついに後にはアメリカ一番の靴店となるに至ったのです。

自分の職業における二針三針の奉仕が信用という大きな財産を得て大を成した例でしょう。

このような職業的・社会生活における奉仕の実践のことをロータリーでは職業奉仕と言うのです。本来職業というのは私利私欲の追求という事で動いている行為ですが、もうけの金高で一喜一憂するのではなく、もうけを生み出す元になる考え方をロータリーは問題にします。

ハンネーは二針三針の奉仕で客に靴と同時にお客の満足をつけて売ったのです。だから彼は靴の代価を受け取るとき、お金と同時にお客の感謝を受け取ったのです。そのプラスアルファが信用という積み立て貯金になったのです。

ポール・ハリスは「ロータリーの職業奉仕のことを一言で言えば、金銭に集中しないことである」と言っています。人間関係において金銭はその終末処理の問題として、避けられないものでありますが、その前に自分が世のため人のため、そして自分のためにどういう倫理的な義務を投下しようと努力したかを考えよということでしょう。そして、金銭を得る前に相手を納得させ、自分も納得し、社会も納得するようなある種の労務の提供を心掛けるならば、私利私欲の追求がそのまま世のため人のためになるとポール・ハリスは言うのです。

かように、現象面にとらわれず、その本質を見る目と心を磨く場所がロータリーの毎週1回の定例会会なのであります。

第2740地区（長崎・佐賀）PG

職業を通して社会に貢献

職業奉仕活動の事例

生活なんでも相談

第2510地区 札幌（北海道）

各分野の専門家が集い、市民の相談に答える「生活なんでも相談」を、会員全員が一致団結して札幌市内のデパートで開催。無料。

無料相談会を実施

第2810地区 古川（宮城県）

地元の夏祭り「古川まつり」で、会員の職業を生かし、医療、法律、税務、教育などの相談会を開いた。

慰霊法要団

第2590地区 川崎（神奈川県） 高橋 隆天

川崎大師平間寺の貫首。1976年、第2次世界大戦終結、33回忌に当たって、アジア太平洋地域での戦争犠牲者の鎮魂法要を行って以来、慰霊法要団を組織し、1994年、50回忌まで各地を巡拝慰霊してきた。

新興住宅地で起こったトラブルを解決

第2590地区 川崎西（神奈川県） 森下 秀吉

一度できあがった公図を訂正することは難しいが、市内の新興住宅地で起こった土地の公図混乱によるトラブルの解決のために奔走し、勇断をもって解決にあたった。

「よろず相談室」の設置・推進

第2600地区 松本（長野県）

同クラブ創立35周年を記念して、1991年に開設した、信州大学留学生会の名簿に登録されていて、同会の代表を通じ松本RCに登録した学生を対象とした留学生のための相談室。相談内容に応じて、医師、弁護士、調停委員をはじめとして同クラブ会員が相談員となる。

シルバーカレッジを開催

第2750地区 東京八王子西

専門学校の協力を得て高齢者にパソコンを使ってワープロ中心に操作を覚えてもらう、ICを使ったラジオの組み立てなどの講座を開講。それと併設して教養講座として、会員の医師、弁護士が、健康問題、相続問題、財産形成などの講座を開講した。

山村で乳癌検診を実施

第2650地区 樺原中央（奈良県） 深井 泰俊

1990年から1995年までの5年間にわたって、日ごろ健康診断を受けにくい山間部にある奈良県南部地区の1町6村の婦人2,324人に対して、乳癌の検診を行った。昨年ガバナー賞を受賞。

陶芸を通して

第2650地区 京都洛東 長谷川 治

美術陶芸という職業を通じ、福祉事業団のチャリティー作品展などに出品。また、所属の京都洛東RCで毎年外国人留学生対象に開催している陶芸教室で指導をしている。

就職懇談会を実施

第2650地区 敦賀（福井県）

18年前から高校生の就職希望対象の就職懇談会を実施している。模擬面接、就職講演会は、毎年好評で、年度前から打診がある。地域社会の要望に対応すべく励んでいる。

バヌアツで医療活動

第2660地区 大阪船場 澤田 宗久

歯科医として、最初一人でバヌアツに医療活動に行っていたが、数年前からは「南太平洋に歯科医療を育てる会」というNGO団体を発足し活動を続けている。医療以外にも日本とバヌアツの子供たちの絵の交換に力を注いでいる。

優良従業員を表彰

第2710地区 福山（広島県）・柳井（山口県）

職場例会において、その職場の優良従業員をクラブ会長名で表彰した。

患者さんの事情に配慮

第2740地区 東長崎（長崎県） 千綿 国彦

整形外科は仕事をしながら通院する患者が多いので、仕事帰りに診療が受けられるよう時間外の診療もしている。通院が困難な高齢者や障害者のために週1回訪問して在宅診療をしている。幼稚園や小・中学校の運動会や地域のお祭りなどの行事のとき、休日でも急患の受け入れができるようにしている。

職業奉仕のための情報活動

小委員会を新設

第2530地区 会津若松（福島県）

R Iが職業奉仕委員会の下に5つの小委員会をつくるよう奨励しているのを受け、就職相談小委員会を新設した。新卒者の就職について関係機関の実情を聞きながらの活動、また、「会津地区心身障害者雇用促進協議会」の運動に賛同、健常者・身障者が共生する職場・社会の実現に向けての活動を展開している。

職業奉仕研修会を開催

第2790地区（千葉県）

同地区職業奉仕委員会では、毎年地区内ロータリアンの職業奉仕に関する認識を高めるために、職業研修会を開催している。今年度は、10月10日に、各クラブの会長、職業奉仕委員長、ロータリー情報委員長など、約250人が参加して研修会を開催、深川純一PG（第2680地区）の講演などを予定している。

小冊子を刊行

第2830地区（青森県）

『職業奉仕活動への誘いー職業奉仕活動入門』

を刊行した。1990～95年の『友』誌10月号（職業奉仕月間号）からの職業奉仕関連記事のすべてと地区内全クラブの職業奉仕委員会の活動計画ならびに報告を掲載した。

事例集を発行

第2570地区（埼玉県）

『職奉のこころーロータリアン社是・社訓集』（1994～95年度）、『まごころの職奉ー職業奉仕の事例集』（1995～96年度）を発行、地区内会員の参考にしてもらった。

事例集を編集

第2590地区 川崎西（神奈川県）奥田 英博

顧客満足度（CS）にターゲットを絞り、地域内の事例を収集し『職業奉仕事例集』にまとめた。

アンケート調査を実施

第2770地区（埼玉県）

前年度、地区職業奉仕委員会では、クラブの職業奉仕委員会の活動についてアンケート調査を実施、その結果を報告書としてまとめた。

クラブ週報で喚起

第2630地区 不破（岐阜県）・伊勢（三重県）

クラブ週報に職業奉仕委員会コーナーを設けて、職業奉仕の理念について喚起する。

職場訪問

第2690地区 倉敷南（岡山県）

年2回、会員の職場を訪問しての例会を行い、理解と交流を深める。

事例集を発行予定

第2710地区（広島県・山口県）

『職業奉仕事例集』を発行する予定で、『ガバナ一月信』で、「教えて下さい。あなたの小さな職業奉仕を」と呼びかけるなどして、現在原稿を集めている。

あなたの夢の実現に お手伝いいたします

米沢RC 職業奉仕委員長 秋葉 隆子

職業奉仕委員会の発案によって、6月15日、当地域（第2800地区・置賜分区）第6分区の高校、13校の来年就職を希望する生徒を対象に、就職情報セミナーを開催いたしました。

私たちの目的「あなたの夢の実現にお手伝いいたします」を十分に認識していただき、各校の校長先生、進路指導の先生の協力を得て、生徒330人、父母30人の参加をいただきました。

情報セミナーはパネルディスカッション形式でコーディネーターには職業奉仕委員長の私となり、パネリストに当クラブの会員6人、その職業分類は、金融、商業、製造業、ファッション、運送業などで構成いたしました。

内容については、①職業を選ぶときの心得について自分が選択したときの経験談。②自分の生きる方向性のもつ重大性。③現在の各業界の状況と就職状況。④各企業が希望している人材。⑤各社の理念と経営方針など。

参加した生徒と壇上のパネリストが一体になれるように、さらに生徒の気持ちをパネリストが理解するために、最初に会場に向けて質問をしました。「自分の希望する業界や会社が決まっている人」「このセミナーに何を期待してきましたか」などの質問を通して会場が和やかな雰囲気になり、また、パネリストも私も落ち着いて進行することができました。最後に生徒からの質問を受け、パネリストはそれらにお答えいたしました。

セミナーを行うに当たり、十分に検討し、時間の配分や内容についての事前準備を当クラブ会員全員の参加で実行いたしました。その評価については、各高等学校長、進路指導の先生方に、毎年実行してくださいと喜んでいただき、充実感を感じることができました。（山形県）

社会的弱者への活動

高知北RC 会長 前川 通泰

当クラブでは、1994—95年度から今年度に至るまで、社会的弱者に対する職業奉仕活動を行い、また計画をしている。

1994—95年度は高知県立リハビリテーション所長に卓話をお願いするとともに、その授産施設に職場訪問を行い、仕事に励む優良従事者4人を表彰し、かつ、施設で生産された「卓上こよみ」を委員会予算で購入し、クラブ会員一同に配布し、その実用性が評価された。また、その施設の職員と生徒に「四つのテスト」を配布した。

1995—96年度は、社会福祉会あおぞら共同作業所の新築移転のための資金援助として委員会予算に会員のカンパを合わせて10万円を贈り、職業奉仕月間には、理事長を講師に招き、卓話を通じて障害者に対する理解を深め、事業活動への激励を行った。

今年度は、社会福祉法人すずめ共同作業所を対象に昨年行ったのと同格の事業を計画している。ともすれば社会奉仕を共同活動とみなされるやもしれないが、社会的弱者への大きな励みとなり、当事者の職業に対する誇りにつなげることは、やはり職業奉仕の一助だと思ふ。

また、社会奉仕的活動で自らの職業技術を駆使し、3年間にわたり特別養護老人ホームの50人の方々に散髪の無料奉仕を行っている会員がいる。その会員の経営する店の理髪師たち10人で、2カ月に1度、散髪をしながら話し相手にもなり、ホームの老人たちに非常に喜ばれており、市長表彰を受けた。

このように、社会奉仕と職業奉仕が混然一体となることにより、その奉仕活動は大きく広がりを見せるのではないだろうか。

（第2670地区 高知県）